'78 7
No. 74
昭和53年7月1日発行
発行 横越村役場

広報よこごし

おもな内容

1. 6・26豪雨水害（1P）
2. 村長選の出馬を質す（2P）
3. 米価引上げ等の意見書可決（2P）
4. 自動車事故被害者に生活資金貸付（2P）
5. 待望の野球場完成（3P）
6. 雨の中で熱戦　小杉分館大運動会（3P）
7. 第4回早起野球農協チーム優勝（4P）
8. 香港旅行記（4P）

躍動シリーズ⑥卓球

六・二六豪雨水害

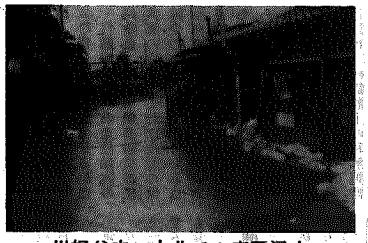
農作物は億単位の被害

今回の六・二六豪雨によって、本村は尊い人命を含む大災害を被り自然災害のおそろしさを目の当りにし、防御の為す術もなく唯雨の治まりを祈るように待つ有様でした。

中下越を中心に未曾有の集中豪雨で、阿賀野川の水位が上昇、横雲橋の橋桁まで二米前後に迫り河川の占用地は濁流に呑まれ、一面泥の海と化し、集落はいたる所浸水箇所が続出等々、村中テンヤワンヤの水との斗いでした。

幸い住家等の浸水も消防団や、地域関係者の懸命な努力で床下程度に食い止め得ましたが、河川等の農地が濁流に洗われ、農作物は莫大な損害を受け、調査が進むに従がい億単位に被害が拡がり、その額は二億円から三億円を超すものとみられ、農家の悲嘆は察するに余りあります。

濁流がうずまく横雲橋



川根谷内、大曲での床下浸水

六・二六豪雨被害概要

田の冠水	250ha	畑の冠水	43ha
床下浸水	20戸	船舶の流失等	5隻
死　者	1人		

災害対策本部を設置

村では、一人の行方不明者を含む異常出水による被害が大きいため、村長を本部長とする災害対策本部を二十七日設置、管内のパトロールに当りました。

又、これより先の二十六日消防団の非常出動を要請行方不明者の捜索、および河川堤防のパトロールに当る一方、水防資材の点検と危険箇所の重点監視等徹夜の動務が続けられました。

木津堤防危険？

寿橋では土嚢準備

二十七日水位が最高に達しなお増水傾向にあるとき、旧中央保育所に設けた消防団詰所では村長および消防団長等が対策協議中、木津堤防決壊のおそれの電話が飛び込み、消防団は自動車ポンプのサイレンを先導に緊急出動、村長等も早速現場に急行する等、一瞬緊張感みなぎる行動で一大事発生かの情報が飛びかった。危険箇所は内堤の法が長時間の雨水等による浸透で、三～四㎡の土砂崩れが生じたもので、土嚢による応急措置で難なきを得、ほっとさせられました。

一方、二本木の寿橋では、激流が橋桁に届き始め、堤防の補強と一部岸崩れがあったため、各戸に土嚢提出の要請をし、厳戒体制がとられました。

横丁橋

各地域で家庭教育学級の開級式も終り、いよ～保育園児を持つ親たちが、精神的にも肉体的にも健康でたくましい子供を育成するため家庭教育の知識技能、態度を習得すると云う主旨で勉強するのであるが、高度成長をめざす社会、親のもとに育つ子供達は余りにも恵まれており、時には気の毒な面もある―。

子供はまさに「未来のオトナを創造するために働くのだ」所で今の小学生の六年生でナイフで鉛筆を削れない子が六割もおり、三年生では大半が削れない。そしてヒモ結びも下手だし、ハサミやノコギリも上手に使えないと云う記事を見て驚いた。日常の生活でも鉛筆削器等便利なものはいゝと云う考えに進づき、ナイフは危険だといって与えなかったり、服を着るのがおそいと云う事で手を貸したりしてやる事が、結局子供の成長をはばむものではないだろうか。これから「正しい交通マナー」「家庭における救急法」「家庭環境を今一度見直す」「正しい幼児の性教育」「しつけ（ほめ方、叱り方）」「入学前の親としての態度」等大いに勉強していたゞき、得た知識や技能を家の人や、地域の人々にも教えていたゞきたい―。学校も一学期が終ると夏休みに入る。この機会に家庭内の教育実習も必要ではないでしょうか。子供はオトナのマネをし、そして、未来のおとなを創造する。ドロンコ遊びをしたりして一つ一つの遊びの中で成長するのである。母親として、高度成長をめざす社会での便利さや、効率の追求が尊重される現在その思想を不用意に子供の世界に持ち込むか、持ち込まないかを判断するのが、これからの家庭学級生のみならず大人の今後の課題ではないだろうか。

（山崎）